清水観音縁起

七

●ちちのなりたるもの

別行記 精進ちゝや陸ちの用けうも

千りのはちうじはずむかひ　くんびのをとなはちはずむかひ

緒捻

桃花葉華曰或ニクルニク近代ノ中ハビハ小緒ヲ結ヲ法ヲ仏ニ大緒ヲ二筋ヲ

結ヲ今世ニ少ニ知ル人　又ニ結ル物下ニ繁ニ時ニ用ユ同名ノ中ハ漢緒皆減物也

爾ニ是ニ中ハ

みちのくるへゆく人のあはれさまたるはだ。むまれ所ちがへ長ものかり

なるほど。　大般若経はどきまうひとりしてよみはずむかひ

讀経

大般若経一部六十巻二百六十五巻　大唐玄奘三蔵翻譯ヲ

十二年乃山ごもりしはずめてのぶかひ

十二因縁の観法は心をかけてはずにこそ。縁覚位乃ぼり也。

九曜文庫

方弘前注あり
面さしあてをいとぐくるまはりにあるものの孔。方弘の
あやをぬいつかまつらん。方弘が
信よあり
くるまのぐるをいとくし。
あのべ
方弘の下襲
柏
ぬぎぬ。人まちとらくてきこえ面紙。方弘の
紙燭
紙燭はけやさ。あるにこれを
他の人をも
ちとくしよさせばやぬぎいのり。げふまを
よるのあやを
里へ
詞づひのぐぞあやし。
里より
よるのまれとりよやあるよ。おくしふちまを
男の詞
ひとわしてとりよまつり。
方弘の詞
なんものとをいふよ。たのやしーとやあるこやひとらしーくふちがもの弟ぐいいぐり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

なんいいつてまさわふ　陣月の中乃若竹（三月ある中の喪也　方弘）　灯臺

油草也　下ゝ草也

[illegible]

倒　強　捕

[illegible]

和名　機説文足衣也　和名志たゞ久ゑ　東山左府説　機謂礼服之

時用之練貫上鶴及顕職之人用之辛紬上鶴及老者用之

震　動

[illegible]

大盤

[illegible]

障子

[illegible]

[illegible]

近江　相坂

●関々　月令章句曰関在境要察出儆入也

あふさかの関　接津　すまの関　奥州　[illegible]の関　同国　[illegible]の関　同国

同国　摂津　はつかの関　[illegible]　八雲御抄　[illegible]

はつかのせき　あづまの関　伊勢　すゞかのせき　駿河　よこばしりの関　同　清見がせき

[illegible]盛家の集

[illegible]

[illegible]

奥州　由良乃関　みちのくの関　奥州　よしくのせき　[illegible]　奥州　よしくの関　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

●[illegible]て　博物志曰凡水源有石硫黄甚泉則温

古堂信乃　[illegible]

なるかの湯　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元亨の年中　[illegible]

●[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東坡曰　世多以墨盈山水竹石人物者未在以盈花者也汴

人尹白能之　相つぐの差[illegible]

[illegible]

●[illegible]

杉の木　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やまと書天文仰ぎとりて、あしがきなどに、筆をびらびらとかき
のこしゆめづかの口くみて、やがやがふすまに、絵をもかき
京をまねきぬるぞよくその心ゆるべきや。

●あり行ものの

孝あるべきの

布雅 善事父母 陳氏曰 深意在善字上 善事之中
有無限難能之事 未易言也

御嵩 精進

たのの者。よきあしきのわきまへをけいちうじ、ものをもむかつきの
誓言
ぬるぞ。たのもしや。むつまじきの人の月さをまして、国ん。おのひやもあるづるかの
金峯山 白参詣法師のより拝也
ものさびいるのんとはしをしきものをふまうぞつきをいとぬぞ

ふるしのさびあるぞ。狂人わろさ。いみじき人と同ゆるぞ。ものく
みちのほうのふかのあり行をもちや
やうにものをつくしをきたるものを。たまつの花のかをはあらぬをふかくる。

源氏家譜 敦實親王の子。正二位左大臣。重信の子。従四上
宣方ものぐし。丹高明公の女。
のかの親人ハ
でこそよりまきぬるとて。まうぞんよりあるぞうるあんのあるぐよりもあく
てよりとをけのさまはづとて。三月はづ
月おぼろく
ぬるさ。ものさまやまのいとぐ。おぼろくしうるぞまて。あるこづ
よりのをけるぞ。

藤氏家譜云 三条右大臣。定方より五代。中宮大進。宣孝の息。
主殿助隆光 長保三年卒人年九

[illegible]

桃葉葉に水干のる。紙にても。手紙生るとも。又色白く

てもぬるとも。大納言の時。[illegible]で内こよ[illegible]用之

[illegible]

すべて山ゐるとるすべてのくみ[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月晦る。十月はじめ。[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲ゐよりくもしく雲ゐよりなほくもりなくて雨ふるがごとくあめ
あまこさかりつぎてやとわろし。聴衆の居也　けつせるまうでまうでつぎつぎやすらんとハ。
薄階（しなだんのこざはし）
らんばのうちより
うちわの語より　梯よりのぼるべきなりのぼりたるの木をまぜくるつちく
車引よせくるるよ。おびやく衣の躰也　おびづるしうわうきの帰のあづまこのもの紙
くるくるいたるつぎをもあくおのぼりくるて。
南史謝霊運尋山渉嶺必造絶峻木屐上山去甚前
遠下山去甚後遠　俱舎
ゆくもなさ所のはをよみくるのぢ頌
くるる。所ようはくるおるれ。

五時名月如来滅後九百年天竺世親菩薩出世作俱舎論
来翻譯名義曰俱舎是為蔵即包含摂持之義也
清ッ
我のぢくるいたるおるくるくるはくふるくる。ち桐おたくゆくるをるぐ
所ある行僧の心安き躰也
いづくくるのやうるおるひるもおるつづねるるぐいひくくるけどる
車より　まくのまるるの躰也　とるつくるふさる也　背子
くるくおるくるさぬくさぬよ引くくしくるるもわる。さくくるきぬなぐ
さくぐくしくるはくるぐくくくるるはる。水履　泳履　半靴　廊
はどるぐどくるくるいるくる。うるわるあくくてまくさおく。
沓　摺　又麻靴也　禁中めくくや
和名深履其頭短者為半韡　桃花薬紫　靴深沓同事也
東帯のとき　靴　赤地の錦。常ハひきはぐの皮。有黄金物節
會の時。内女の冠なり。若ハ白絹奉の時用之

内外をゆるれつつく人也
うちとるべゆるさいるやつくさあのこども家のこあど、まこ立ばくこて。
道の高下乃素内也　いさこし
うこくこくこくあるる所あるいるあ。あ。ばくこるるあ。ばくこ市
清少ーくん　先立
むいるくらくいるーあゆみ。さいばくらこのるるのるどを。ばーくんのあり。まこるり。
なるあるこの
くふ海ばらぬつどるるなどいるる式。げるとてすくーこ立をくるるもあるこ。
いやーさんの駿
まこさまくこいるいるで我ばくるるくくるるのばるこよとゆくよあるばるるる
居並　癒也
ゆるるるくこ人のあるこのるるをとゆるるゆゆげるいくこるてあるるよぬぬ
行ばんの中ばるこの也
ばるこの中をよるいるくこるくこるる。いみじくこあるくく。なるて月ばるる
対勝高下の素内也
まるるばんるるくんとてまるばる。あるるる。帝朋みあーー常灯ばるるで。
内陣
くるるよみ人のるるくる。あるるくしこるるるばくるるくるるる
燒

序品曰爾時有仏號日月燈明如来ーー

科註曰日是恵月是定定恵者是自行徳也灯明者是化他之徳也

仏のこくくるみて仏ばるるるくくるるるとげるよるばくるよ文ばるるるて。らい
的線の字　教文なる　礼
盤　ち難　仰明むする　動　教文を
んるるるるるばるるるるるるるるるばるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
満　教文なる　教文をこくく
わるばるるるるぬるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
教文なる　教文をこくく
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
イ本千灯也　梅檀香の也　査考
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
清少のこくくるーー古ばーくるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
行ばるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
行ばるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
清少の意　教文なるくくるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
行ばるるるるるるるるる

文選ノ註ニ謂ハク辭多畧不能載之也師古註云ハ猶云
尚ほ多くの事を未
すべて出かけてあるべきつづくべんぢうのもれてを
らのもとなるべしとの。

和名抄ニ 栖中有道可以注水之器也倍用稼字未詳但和名
之義或説有栖半揷其内故呼爲半揷也

諸経
法の恩情少のつかねをなげくべきの人くハをこのへとん
はかの何ものといひくまびそゆげぐらのぐぞゆぐずき
やうのねの音。我れやとさげぐこのもしくさこ世ぐさくよよ
額突
わしさあくろいとをびやるよ。ぬるぐどけぐぐちのるぐどぐこぐろ
あくんときくこるぐこるぐいるくなるくさるくいるねる
寢ねる長や
おくるるよくもいやわりなるまぐうちやもむるぐそ強くくを国ぬるぐる
地声よよむや

よみくるも。あうとげやくくうち出させまるぐきよまてけるぐど強あ
ざやくる国るくてあくで。故あ一ちのびくぐみくるぐぐをおもふん。
わかるよみれてくるくくちおよ鼾や
くくをくるへげやくくそわるぐめし。ひぐるくこすくるのどぐ
宿世
まぐそくやうそなるし法一の何よ。おのぐもやうびるぐのゆきて法れぐ
清眉
なるふぐぐくくるくよ。の法いくきくそくぐぐふくよあさ出くくるそおぐるれ

法華経序品曰世尊欲説大法雨大法雨吹大法螺擊大法
鼓演大法義　科註曰吹大法螺者令大衆心喜瑞

きるげるぐるぐそぐるぐくるやくるおのくるぐぐきやうのれぐくるをくぐ
童子行法華筥北上鶴堂童子行證義座

下臈者行乙僧講師南上臈行僧綱座下臈行聽
衆座次散華立仏前立堂童子収華笠退出

[illegible]
[illegible]
[illegible]

どうわくあつかりきこゆ。まことよるのどをぐうんぐうんとくし
さんのあるひとうだ。わかみどりのはつめさのそばだつ。ふさ
ぬどもわまことて。みどりとあつとみゆるわくさはのえだうう
うちたつそさこ。わくいるのてきふひのりのどもあまさかしこちり
いねーーーこもあーーーうそめふ屏風ーーーめるーーーすーーーはく
めるーーーぬハたるのんとゆーーー

[illegible]

ぐよりうぐし多し。市さ[illegible]みせまじりの[illegible]をいふを[illegible]。

の市さ寺ごろ。すべて[illegible]寺ごろ。内のもれはらまで。[illegible]ぬ[illegible]。つるみ人のかぶりしてあるを。

[illegible]ぐ[illegible]そ[illegible]ゆれ。[illegible]周年よりて。[illegible]ぐ[illegible]ぴ[illegible]りて。[illegible]

さ面くいひあいせうべ。さんへ。[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ひ[illegible]ふ[illegible]ま[illegible]さ[illegible]ぱ[illegible]

そのあるを人の中さを。[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

僧

悲華経曰袈裟聖人表式也随順寂滅行慈悲心更應服也

法華経云五月最勝王経講下云次出居法師参上昇座自

青鎌門帯剱持笏如直

六月のすゑつかたのあぶり中

菩提資粮論云阿遮梨夜随曰正行　六十二代後二条院御宇

長元七年十二月教圓妙任阿闍梨　この官妙や又或記曰安惠

内供妙任此官是日本阿闍梨のそもや

まさかりのそのあらねのうら

四色字苑云鍛打金鐵為器也治焼鉄銷錄也　鍛冶の二

字陪踏也うちとそ訛也

●そづーさめ

いろのむかしのうのうら。　寢ごうのうさ　このそづーさ心あるよりの好信

東山左府記曰　夜居護持僧俊二間加持二間有観音夜

居僧加持敗也天台坐主寺長吏東寺長吏也

容

みそのめ人のさるべさめ　ぬけのごあるを

ふるもそ人のさるべさめ。　ふるさとのびやる。あるる人あれん。

みのあるを初めぬけ人なれこ　よあの俗のねすてみや

そしをあるべそうよあるとやおもん。よあの俗のそいとそづーさ

七十五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

髮かみのすゑ

みづからさ人のかばくとわかしてくみけづるほや　櫛　ぜんあるさ　ぜんあるさ

本の風ふかさふさけて根とはくぞよくこゝに拂ゝかるか　すゑひの

まけて落うーろで　うーろの躰とふるやぜんあるさ

相撲　日本記曰垂仁天皇の時七年始有之又聖武天皇神

亀三年始諸国相撲人ホ被召

曲者　従者　乳母すまうや　髪　老人の髮はくしたぜん

ぜもすずさくんぐ落　ぜやねもむ　ぜの　おとこれ

人乃めかとのすずろ落もれ　ぜんじ　ぜの　ぜんあるさ

ぜやおもひ落よ　ぜもねぬや　ぜもおもひ　猶大　獅子

ぜのほうり家出　ぜのあるかさ　ぜ落いぬ　ぜまもあ

ぜもあびぜ　ぜのほうり家出　ぜもえぬや　われと　ぜの　ぜ落いぬ　ぜまもあ

おもろわはやき出　おぜ落　ぜのあまふ　ぜもむやのるとおもふや

修法　高上の法　おろ落　ぜんあるさ

ずろうハ仏眼真言ぜよみ奉り　ぜ落　ぜ落めりーうふと

仏眼　亦名仏母　一切諸仏母之源　ぜの一言ますぜ落や

曼陀羅　仏眼曼陀羅　中央　仏母　諸天圍遶　ぜ落

大日経釋云真如言語故名真言　風觀水音有情依報正報

悉出音声真言阿字説法也真如言語談論なる故真言と

言

●はーうかまあ　無半　ぜんぬころや

外人　ぜろ人をよばれてぜ落もれ。まてこのとうすろわぜ。ぜぐちの

ぜぐろ人のうぐうらいひそうぜぐそもろうかぜ。おさるこ人の関とわく。　きこすまて

その人乃わ落まてよいひ出落。　秘乃あ落時のるや

ぜふいとあはまとそ関ぐろぜぐれ乃と出ぬいとはーうあ。おさ　法

がいはうの。あしきさまふなせば。（涙の出ねばや）いとうしの。めでたき事をとさくふ。
（あるべきの）きさすがうまれいでさせたまふ。（一条の院）八幡の行幸はゆるせ給ふよ

一条院八園韓院第一の子諱を懐仁（カネヒト）永延元年十一月五清水
（東三条院）わまは法師のはづきさや
女院のはたらきのきのわかるよ

一条院の母正暦二年十月尼と落居の院号宣旨まる
（鳳輦）はたらーをぐめて。（女院よりの）はせうそこ。はたらーなぐいみじくめでたくさばわ
帝の（女院の消息を畏敬せさせ給ひ）よはけうわさ。あるてかくこまわとさせ給ひ。ふたりずいみじきふ。あるてふ
清少の感涙や　化粧のふや　（涙は白粉の洗れてと）ちるわらしぐ。けはうじしふかうもるわらいていふみぐ。ふるうん
宣旨や　（齋信）ぜんぐのはたはひるて。あるのぶ宰相中将（女院の）はたはらふ。ふ紙ひーて

（守相中将のめしうけ行や）いとはうーうそしう。あるぐ。随身四人いみじう。（装束）ーうーて（馬のはとり）うもうて。ふばわーて

江沼冠（ニクル）若為（ルル）検非使別當者馬副八人本府随身四人
無家の宅二条京極よりの（ふ）ふ。（ふ）ふ。（ふ）ふ。

道隆公也　瀧口の戸の西也

関白殿、ものの戸より出させたまひて、女房の御局に居給へり。

侍、一宮也　女房達也　関白の自分の事也　嗚呼

おいらぐ乃おとらぬ、ものの御ぐしいかばかりとわけ給ひ給へるもいと

さぬ給へるぐらふ人くのいろくに神にてみすの内ひきあけ給へり。桂

道隆公のこと伊周公正暦三年薨ず

大納言殿、いとうつくしげなる。関白殿の

乃ふるまひ、西ざまにてまゐり給へり。

桃花葉葉扇、ニノキヨウ多ヤ子

白き紙、二尺八寸。太さ一寸。関白の御一丈二尺許也。先御陪也

先わかめでたく大納言、ばれ人くに向給へり。山の井の大納言

狂

山井達

なつかしくさらぬ人ぐにの引ちらし給へり。

公卿補任曰　道頼無家公為養子

公卿補任ニ　道隆子也無家公為養子

弘徽殿之西五間四面　居住

花殿、まいりまでおるのみ給へり。いとわかやか

道長公也　左力也　関白の躰也

にいみじう笑めりうて、はせ給へり。

道長公也

宮の太夫殿乃。

勘物云、ハ堂殿正暦二年、権大納言中宮大夫ニ

道長のはしらせ給ふまとおもふ也

清涼殿のつぼにまゐ給へり。そしめて

道隆公也　道長公也

すこしあゆみ出させ給へり。あやうみ給へる

関白の前世に因果を作給へる也

道長公也

殿ばらの御ぐしのいとうつくしうこそ

行末也

いみじう目とまりてうすくおはしまし給へり。

秋日也　今宵也

中納言殿、まゐ給へり。

続也　令珠

あをくてのずいたばす。

関白殿、栄花物語ニ云ハ

めでたくなりぬとおぼしたる也

関白殿、栄花物語ニ云ハ

中宮の

さてくれまゐる関白殿、はせ給へるなりけりとぞ思ふ

めでたうちあそばせ給ふ。まことめでたくなりてぞ人々まうすめる。

梵佛曰仏陀訳曰覺原謂自覺覺他覺行円滿。今号称仏

左兵どのおはせ給ふを。さてもくまきゆしぐぞいのおもんとわらはせ給。まことにこのちろれたるさまぞんちまうせ給いぬるぞちとかぶ

めでたかるまし。　九月ばかりにもなりぬれば。ちとあれたりしあれば。ぜんざいの蔦ばかりぞ。こがねの

みくぼあさ見はるかやうにおちぬる。雜紋落葉のやうなるものの色々なるもの

あれかしわらはもいとをかしうすらんとおぼしけれ。蝶

乃すのこぶしのうちにて。ぶくぶくいとをかしう。雨のかはりぬるぞ。

蝶のまことにあらぬさまにて。ぶくぶくいとをかしう。雨のかはりぬるぞ。

蝶のまことにあらぬさまにて。ぶくぶくいとをかしう。雨のかはりぬるぞ。

高

日ぐけのわたぐるまのいとをかしげなりつるぞ。はゆのおつるぶ。あぐるに

うちうごきてぶくぶくもあれぬるぞ。みとりみざ面へなげわらはぶみじうをかし

とをかしう。ちとくのこちうりもぞ。はゆのおつるぶ。あぐるに

是も又別也

七日乃菖蒲を人乃ちとりはぐさまをかしうをかしう。

草紙。子どもの手にてきりをとりあつめたるもをかしぬ

草紙の名也

なぐさこそ見あいやく。みぐるまいとをかしう。

耳無

クわ。さまぬくるをかしうをかしう。まことにをかしうをかしう。

清少納言

とをかしうをかしう。

清少納言

とをかしうをかしう。

清少納言

と

をうけたまわりてするものなり

定考　家事根源　昔官位の上ろ如階とする人をかの藝能
紙を押て栄爵紙行ひけるを上々官の東北廊よりとる。
事紙行ふ。明年よりて。上献の規式なり。淳和嘉穀の在
りはくまるをもくと献なり。ゆるす二月のおもてなり。
式無し。両省より諸司の輩の上日紙選成する事と別見
とふ。官紙を集て撰階の業とす。あんくの
撰ぶて。定行ふ紙定考とや也。
別見　二月十一日。三位以下の藝能あるを撰ぶて。式部
宮和歌を献ずる人。内記史をもて書て大納言
聰明也　釋奠元旦也　二条院后宮　餅粥飯つくひ也　使也
両省より奉しまうとて上ろめりよせく。紙屋宮保紙みる也
をうめりて。宮内卿。きまれる。ちりけるもて。ちりする紙
江次第五釈奠元旦　寮官居聰明の折敷宮城志葛の郷
註聰明者酢也　餅粥飯栗蕪乾棗也
紙屋の紙りとりて。主殿寮
ゆきて。ひめもの。みじかきこと。
とりてさきちりて。つぐんとよめる紙。ちりもわん
和名抄裏餅中納煮合鴨鴨等子并雑菓方
載一名餅脍　脍者也　形紙也　清少のうた
三条西実隆卿やりとりけん。全上へいどんつはくみ

男文の中ニふかく清ヲ行成の道ヲ行也
仰ふかくして進よめ仲ノ少納言成房朝臣。月日かさなりて。三河の成房
住郡ヲ也
とて。おくふかのあるとそこづくりあんとする成。
カヲ ヨモ
無伝自筆の姓氏録の奥ニ麻那と書也
ミナ
ヒウジロウ
広家の
家ニもてなしわろしとて。ゆるさぬけれども。いとゞ成房ひらの。おもて
少納言の
広家の
より。あて。ゆらんせとすゝめ。めでたくもかくしたるはしかりうちつゞかめ
清少の詞也
さぞ行ひて。ゆみやとせ行ひて。なりのそいてすゞんこのをい
ぶんとて。広家の。ものゞやとうもむ。ちうとれ人まゞかといふ成
惟仲
広家の
関めて。ちうぐ。ちうつるよびてとのまゝにすぐ。ぱゝみ出て。
清の
惟仲
左大弁ものきらん。まゝ。ひて。いとすばいとうるはしうて
広家のめのまゝとなりて。きらし侍也
繁の字也
ちんはちうそ也
きてあり。

◎郷補任ニ系ロ曰ク平惟仲内蔵頭大学頭丹波田長官参
議左大弁中宮大夫太宰帥中納言従二位寛弘二年五
月於ニ太宰府一薨ス年二十二歟伝中国青河郡司也
併略也
ちうこと
あるべきうこと事やとうもおぼゆるなどのもとふかくものうてこそ
惟中の詞也
下部なるべきふめて。すること事やあることとぞ。ぜんぜんとぞ
太記官外記史の詞也
仕ふるあるべうとはせ行ふ。上下のうちうて。ものさせ行ふかた
いそこのるたうん也
とぞ。いとうるはしくふかく。ものうて。ぜんぜんとうすやうるうこと
戻道
ものうて。ものいうなるんこそうて。めぐ
わ成の清少ふ
ものうてこそ。ものいうなるんこそうて。めぐ
成の清少ふ
成の詞也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はさ一所どまりて屋とあけまわりて
ほめきてゆるぶ。いそぐ白ぐ
ほめる内は人をうらひ[illegible]悪心業[illegible]也
ぶ。かさばるいとこころのおもはる也
おとこ[illegible]
大さのるもむる也
とそでぬ。などさる人しもようめはわるほむるぐ
さうぞく
ひおはるとのうまふ。そはぐまくぐ
ずいそあるゑん男もやもけぐる
さん。とくひさ[illegible]
ひ是員也
中まあねあるとのおにそ人のるめる也
どすぐわびうむがゆるなるとやでぐ。ゑのもげるのるやとのと
ゆるもはる。
中文藏
須乃舟のゑるゑるゑるひてものかるなどしまるよ。ゑいとるぬ

公卿補任ニ藤行成故太政大臣伊尹公孫爲子右少將義孝
一男母中納言源光保卿女長德三八月廿三右大弁

あすれ内のもの
あるものゑみるゑるゑるゑ

史記列傳第十五　秦王因孟嘗君寵姓名夜半至函谷關法鷄鳴出客追至客有居下坐者能爲雞鳴於是群雞皆鳴遂出關

孟嘗君のもてなしをうけてゆるしをこめてくるのそねばはるかもとのあらはれしかくうんとひきてこうのかくわげるさたわとしてあさうの事なりとあれど。

夜ふかくふ島の音をいかに紀貫之のあらはれ函谷のくるゆきなりあふさかのせきはゆるさじ

よをこめてとりのそねばはるかもとのあらはれしかくうんとひきてこうのかくわげるさたわとしてあさうの事なりとあれど。

史記列傳第十五　秦王因孟嘗君寵姓名夜半至函谷關法鷄鳴出客追至客有居下坐者能爲雞鳴於是群雞皆鳴遂出關

孟嘗君のもてなしをうけてゆるしをこめてくるのそねばはるかもとのあらはれしかくうんとひきてこうのかくわげるさたわとしてあさうの事なりとあれど。

函谷關に

経房の詞也
経房乃中将の沢の弁をいとどうほめ給ふとぞ。一方の方の
はめでよあわし事なども多く侍。おほ人くもかめるそいとど
うらうらなどほめやうの給ふも侍。おほ人のなるよ侍らるる物などいと
そうのかめ給ふなるうりまさおほ人のなるよ侍らるる物などいと
物をめづらしいほのぼのとのやうもまらび給ふなどのさま
是も聞るや
月げつわよ月もなくいとくさ花。世房やまらい給ふとぞ
しくいとでぞ。出くみよ。まいなずいふもてはやせられぬ
石清水の詞
高山をとそ。ぞ。ろくしうきいやうなるほどいはり。をもいて
でみすを撫也
ぞ。げく。をもよ所いほを。ろ仏のえぞなりら
和名類聚 笄竹漢語抄云呉竹也和名久礼太介 似竪而

節茂葉深也
節の名也朗詠の侍の詞
ものさみしくそれいとあはれさていざやこれ所よりてうらん
とて。中将新中将古注どもなど侍ありとぞ。経房ぞとまり
経房 仏信 一説也
給ひてあやしきいめるるかぞ。はよ人の行をなりく。

須徳院御抄曰東庭竹臺近代木工頭伊予天徳内匠
寮作兵竹架

中文の職也
ものよあんとんはるる。ちさうり来く。なぐくも。ぜばうるどよびて
芦房ちもてもふちまんも
出くをいとてきつる。ちれ竹の名をいとくいれくいめるこそ
清少の侍の名とぞ
清少の侍の名をいとくいれくいめるこそ
おるれ。たぐをくへをりて。人のるべて毛屋べらをわるぬ事ばば
清少の詞也
いめぞなぐのうまぐ。ゐけのをもちぬめも。なぬめーよや

しはしもとゝまるべきやうもなくぞおぼえ侍りしとのたまふ。面々のがいひ

あハせくわさまへるよ。このさまみとせうもをいまはとずてまる

はめのまねなり

あはしまたさうなく

晋騎兵参軍王子猷栽桐此君唐太子賓客白樂

官也　司の名也

天愛而爲我君

評議也

り感の風也

爲上の風也

あやしくこうしてかくのごとくもいはれぬべうもあるかな

名言まことの名言なり

ぜんいとやうくなるん爲上の風也

り感也　爲上人の風也

意

爲けうぜさまあるまじはるもとかくもとかくもとも

この文をかたをかけ

爲上の風也

朗詠ナリ

ぜんいとやうくなるん爲上の風也

り感也　爲上人の風也

意

爲けうぜさまあるまじはるもとかくもとかくもとも

この文をかたをかけ

朗詠ナリ

とゝもいひてうはとくなりおはしぬ事をもとりあつかはずんど

建春門院の号

最疾　別人也

爲ぜんのうんりょくをかくしてかくのごとくいとくわの名言の名

はなはだ驚き感ずるの風也

爲ぜんのうんりょくをかくしてかくのごとくいとくわの名言の名

といはざるは文をいとせざるよ。このうをかくしてかくのごとくいとくわの名言の名

清嵩　笠の風也

爲ぜんの事やあるしとゝはせたまへるもとゝはなかりけるとゝ

いひ出たりしとゝゆきなわあるんのうをなしてかくのごとくいとくわの名言の名

中言の風也

とゝはすてうとうすてうとうをかくしてかくのごとくいとくわの名言の名

是は居ながらの人をいふ

爲ぜんのうんりょくをかくしてかくのごとくいとくわの名言の名

一周居のうし

一条院の父帝也

とゝゆうんりはとゝのうをかくしてかくのごとくいとくわの名言の名

圓融院の傳右ゑゑ。安和二年九月十日即位。永観二年八月。譲。

位於花山帝。正暦二年二月十二日崩じ給ふ。一説

[illegible]人はみくめざなどてあれるる事をおぼしけちはべて。
円融院 院のくもるのこころもふなどいそひうん。[illegible]
[illegible]帝の[illegible]けよ。[illegible]人の[illegible]
諒闇なるはけれどさるふせるもはべりてひるのおのがて。
かりらるしてがわそめまるるるるるるるるるるる。
[illegible]などようるるるるるるるるるる。[illegible]
[illegible]
皆人をものるるるるなるぬめる。こけの衣よかるるるるせよ
あめれいるる事は日後三位のはばねよ
大かみよ。栗田後を如来八位一条院のはめとれ後三位はれるる
るいでき祝ぼすまるるるるる

西のおのるる後を
このもしるるるるる。おれ身なるるれの志るるるるるるるるるる
けるる。[illegible]
みるるれば。[illegible]
[illegible]
へてきるるんとるるるきるるるるるるるる。[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
わるるるるるるるるるる

仁和寺の光孝天皇の御願寺 本尊大日也 仁和年中
建立 故号仁和寺 亦妙心寺の西鳴瀧乃東也

源氏家譜 敦實親王の三男 寛朝 仁和寺大僧正東寺長者
円融院の〻多
なり給へり。 後大納言ぞかの円融院の別當なりけるとぞ

正暦二年中納言従二位 藤原光九月廿日 法門 為別當
なしとも法事なめり。 [illegible] 疾也
[illegible] 大夫の長官也
[illegible]

[illegible]

[illegible]

めをやんりてぞうみきこえてわらひ行ぬるをいとうるおかわ
はぬ。たゝえんかのどとゝふものゝもなりけり。 鬼童丸

禁秘抄云刀自朝餉上臈女房候朝餉南端中臈内
侍式小上臈候障子外取傳下臈又取傳中臈外臈
得選又傳之刀自持膳洗及鬼間

刀自　内膳宿　其名別也

后宮の女房名
少臈ぶ　ゝ　ゝ　ゝ

●ほとくすさしらめ

かまくらのかわ　どすぐろく　ながれいりたるこのあたりの　ものうらぶ　菜ぐさ　ぐさめ

はらむ折れたる人ごとや

ぬぐきてうかぶ　ものいをあはれいれば

●こうかのさまの

みぐるひめのめいしゅ

かうらのくげふこうかのさま人。

この　ささしたる早下也

ものいみぢうかうさ事いひしらとよりけれ人まむかう事と

てい面よりむべきよりけれど。まことのるひのやばけとなるなどて

門燎火筋　あり相通　和名日周礼日表設門燎

ものきよのきりあるねどころ人ちかくむぴげまるさいでくのみるべき

事まさりけれど。ものさうし　枕草子ものの

ものやしきるもあく　あく　ものの

むしとくさ一かう。

●ものせずくくさうの

義八幡殿五十

昔の面はかれ　おもへばけれ乃事をみるあるむ。

江家次第　時宗起　天慶五年四月廿七日　清水陸時家

平将門乱逆　報賽也

おもへばけれ　主上出陽行幸　義人の経　石清水宮

若くの下賀上　又義人経伸を形使義人今下

ものて一敵二敵ものて。大臣　稲荷　三敵ものて。塔下乃

[illegible]
す。四五歩ばかりて。舞人陪従[illegible]
て。使[illegible]左右[illegible]
試楽之音楽のうつり
[illegible]

石清水臨時の祭[illegible]
[illegible]
[illegible]

江次第 [illegible]清水臨時祭三月中午日在二年時用下午陰間[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

姓氏録曰 掃守首振魂命四世孫天忍人命之後也雄略

天皇御代監掃除賜姓掃守連

職原 [illegible]一人五位[illegible]及諸道五位任之

江次第 [illegible]徒[illegible]経公卿[illegible]石橋[illegible]

中北渡至瀧口作[illegible]

[illegible]内[illegible]南第一間[illegible]出自仙華門使[illegible]

[illegible]の衆[illegible]

江次第 一献使[illegible]

五位[illegible]人[illegible]雑色取[illegible]陪従[illegible]

[illegible]上五位二人取[illegible]

坤の手人也

[illegible]

次第 陪従座勧盃四位瓶子殿衆第一陪従放盃
之後勧盃早還箸下陪従発歌曲之色立梓頭華臺
五献三献の式あるべし
高麗上人かりくやうくといふもの
錦貝 盃貝 蜀江錦 袋貝の級ひろげ四角まこと。搖飯
饗膳おのおのよりなかれをやくいとふや。
[illegible]
炊舎助鋪 神法ぐやもつむるや。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

登上まて葉あるを。葉果めばこの形香炉の馬乗俵ごく。

建春門はいるを。

陵の葉の祝ものを

うとばるるうるひて竹のうせたるもるあゆみ出て。

江戸殿二進出ル至ル吳竹臺下とあるを

賀茂の祭時の象

山面神をみるし川よりけみて空のそすあるかうる海のしる

琴ちらわるるるを　みるるるるはるるぶるいるよせんとそおばゆるや。この葉ないそうれ

面白きや

はるく神社あるせるくみるわばるりいでるみるるしむるいて立あ。

本末の葉人也

江戸殿二云一葉二人先進上鶴者出自露臺南四間

下鶴者出自殿二間拍子之後次第人赤袈裟

陪從平臂緒也

三の葉三の葉也

はるるくいづるるこのるるはひやるしるあるやるくを。そんひのとはく

冠　袍　繕

ろひ。かるうみるるるあるるるびるるはるるろひて。るのやるるるるる。るるるるる。るるるるる

ひて。るひるるるる

高ぐでぢくとぐでよのはなぬぬ　二の舞男ぞ八ぞ
ばるやいぐくこうぱてゐ事れ　ぞまるまぐれ
はぐこくこく山ひめれいとけうぐ　浮の雲のそそ山風
はの雲ぞ

諸社記云承時象宇多帝寛平三年十一月廿四日庚午
之日於賀茂明神在走馬事　勅使右兵衛督藤原
高経宰男廿人参上下社歌舞
祢宜天皇ぞくまぞ男雲の雲
かつぐぐらの内神乗なぐぞよぞ　なぐさめぐれ
況才今紫宸殿至近代不行也但清涼石東遊事
近代不行之但如義経時雲上在座清涼出御

座内のうちぐぐのぐぐくのぐ。

遊燎記事　古語拾遺ニ詳ナリ。古今集第廿九雲
奇　みやぐぐ雲山ぐぐ　戦
神楽の笛乃おしぐぐ　十一月の躰
本まの雲や
ぐぐもいとあぐぐ　ぐぐ
神楽ぐぐ　和琴生ぐぐ
ぐぐ　ぐぐ
のぐぐ　音取神ぐぐ　雅の
ぐぐ　ぐぐ　庭ぐぐ
ぐぐ男楽の役人也
ぐぐ

元亨圖抄清神乗裏出歌韓神時人長舞ニ動座

人長遠石ヶ男

清少納言

葉ごいごろうの長也

人長の心よげなるのごとしそらでけぶ。里のうたさまで。あづかる紙

紙のうら

みるまあるねぐ。みゆるまでゆきくみるおもひつる。おもかるる

木のしたよ。車とてたばすつの名わるるびさくや。のかげよ

葉の

はんびのを。きめのけやを。ぬるとをいるおう

紙のはし

はのいろゆゑをあらしはゆ。ゑあせくぎまのをいるおう

こまみ。みたおがらはとみそのゑれどもわひるるを。ゆるをあり

感意の色

紙もうるはるるおばるるるるる。第人まてめでるるあるる思ひをみ

実方也

かをといひけるこのうごとるる

あの所也

りるる。なくあるる。上ちは古中ちのつみをちりるるあるるはるげく

上賀茂の別当ちは神也。下賀茂ちは祖の神也。あるる日本紀

等根源神社考ちるる

一の橋ちとるるかるはるる。ちは社ゆくたれ橋はのるる。西考

はるるる在二島井北古屋西神あ在流水架石橋加茂二

海しるるこ海ちるるる熱田ちとし

橋しう。ちるるあるおるひるるとおるこのめでるる事神る。

ちるるるおるひするまるけま。

八幡ちは時ちるるるる

拾
ろく紙をくゝうちゆひつばらとそうちゆひ孔などゝ
江戸内記寮の孫幸稚毎(テノ)立小板数(ヲ)前源(ニ)蔵人(ヲ)以下
取先使(デツカヒ)蔵人源陪従内記寮官人(ヒ)紙人長(フ)祿(ハ)医(ノ)絹(ニ)各退出(スル)
高の院
うへ(上)にはおよそ聞(キ)めてあるべうもうん。まして雨せんなどは侍せうく。
清水のようにはなるやうもうん。ひとぐいつゝめでもあるべうもなどゝうけたまはりて家
内おそれなげきなどせさせあるべうとおつまうくゝまじひしたゞ。
そのびかつくまひりをうけたまはりしまのうちばかりもあるべうん
とうちうちゆみはるゝ。蔵人まつゝめすれきけるるこうち。
修理
あるあるべうさぐもいとものゝ(ものゝ)ものゝ(ものゝ)ものゝ(ものゝ)

うちに、花山院とのたまひし法皇、馬より乗りこしかの方へ
ゆきたまひ、月ぞ出でぬる、法皇、弦射たまひ、甚天法皇、内裏
殿のうへ、法皇、逆し給へども、このはづし給ひ、仲忠、
事無きかたちにもてなしたまふ。大元の法、ぜんたいの法、この
方位、国々、新しく、道長、この事、弦、関白殿、道長、
関白殿、調伏し給ふ。甚上、ものを射給ひし罪、多くの事
など、院より、めぐり、新宮、月、道長、ひとりて、源
親元、親、摂政、摂政、検非違使、伊周、
隆家、宮、甚、伊周、
隆家、宮、中宮、伊周、

給ふ。うれめしくおぼして、ひぐらし給ふ。たのもしき
さうなくなりとぞ、栄花物語、大かみ、
前ページ
かつ、高くいかめしくおはすれば、清少納言、
里に、中宮、内裏、
あるおぼしまつる。おぼしつるなりけり。なほ、
変信　清少の宅の事
中納言、おはして、ものがたり給ふ。中宮、
内裏、なわつぼ、房、
ゆきて、うて、
いしつまで、八九人ばかりぞ、
紫式部、
紫式部、紫のかたちぬうをとりて
紫式部、なんぼうなどなりけるか。
紫式部、書き、清書、
紫式部、九月の

花園院宸筆願文　はぐさ殿色書　和すわう書きし。

七月廿五日はぐさの殿書きし。書濃前賞

山面の寺のいとうさ。はぐさの殿仕ぐらく仕るぬぬ。

いつけぬぬを世て出流ぐんとくぐ仕ぐ宰相の殿

ていとはぐなぬ。おらくを行ぐつるし。出雲殿いとうろ

ぐしぬ。殿ぬすぐぬ世ぐ殿ぬんぬぐ。いみぐぐ事ぬの

ぐぐ殿ぬぐぐ。ぐぬべぐぐぬ。殿ぬぬ行ぐるひぬなぐれど

ぬぐぐいはぬ。ぬぐぬぐ世ぬて行ぐなぬぬ。ぬぐんぐ

ぐぬぬけげるぬ殿ぬ。ぐぐぬの面ぐるうぐしぐる

史記漢孝文帝本紀云嘗欲作露臺　四書古原

色。言音法印の流。宀廳の図也。亦曰屋形のるぐ廊下也。

西洞院前内大臣光卿

ぬぐぐぬぬぬ

はず。さてはこれ面白しなどあるべき事なれば、思ひもすぐしてぞ。げに
ひたすらなりけるは。一説文の色ふかき
文の色ふかき
文の色ふかき
そらごとなどもいとをかしく。
世にあるべき事なれば、思ひもすぐしてぞ。
ゆゑあるべきこころばせなどして。うちかたらひなどよ。おさめ文紙
長寿
をてきたる。おなじ所の
文のつづき
なりけり。

文の篇。一京の宮ばらし宮房。小式部などいふ人
歌びと。古東の歌。こゝろもとまさる。ちさとんとそ。ふ
流の方の古上代ばかりで関ゆゑその作ようもあるとい
むすめの古京にいてまゐりけり。これ歌びと

法師の氏法師のこゝろ
ちよさへ引のみもつなまなり。ゆゑ法師
むねはかばかりあけてあけたる。かみこゝろ
山ふかき
ばかりのこゝろ
ばかりのこゝろ
ばかりのこゝろ

謎 玉篇ニ未閉又隠語也

頑也 劣也 ものしる人 ものしらぬ人 ものしらぬ人 ものしる人 ものしる人 ものしる

糯名弥月月之半名也其形一旁曲一旁直若張弓弦

最愛

古代の人はいとけうなりとおもひ
をもはるるにあらずあさましうなりぬ
よりてふるけさせんとてけうぶふ

おもあるよ古乃人嗚呼あはれのよ世のなかの
閉口したる
ちらりしかくさ所がうしちくる
右方の河
いとなやしさおとこ
とろんげれどもそといいぐんぱ
のちくのあるそこのをかりそゆりて
あるはさくのをこのくり
ものれどおぼゆるあ
そうとのちようみてぱ
まづ
左の
ちのこの人ちらに
右の氣上の
れて所幸

所の
所の数也
かすさ
居宅の世
貴方
恨

七月十日。こそいとらくこそやくこのはくみそをぐこさすぐよりあそ
清の字也　曲者　義畠
いとけぐこそうよてわくこふ云せものくこ家ちうつあくげけあどいふ
土地ゆり温気ゆりくこ豆なる也　弱立
ふくぱらもうふうこうあ洗くこ
ぐらよさ生ふくこはくこそあ洗ゆくぱゆこあくこぐこそらくぱやく
ふくうくすわうれりうげよみくこくこ
植物もの下みの軒　ぬげやの心也
あげやなぐーてくみそうふはくこくぱくこさぐのばわくこぐぱくこさみ
ふあのこぐはくこくはくこくふあ本のくふくこくぱくよくさ
本きくくいてあやこふぱまくこ
なぐ洗くこくびくくぱくふあゆそあんくれどいくあぐよくさくう
なぐ洗くこくびくくぱくふあゆそあんくれどいくあぐよくさくう
ふくこくふこはくうづくの本れよくこくあ
ぐくあこくはくこくはくこくこくあ
ぐくあこくはくこくはくこくこくあ
ぐくあこくはくこくはくこくこくあ
なぐふくこくはくこくはくこくこくあ
ふくこくはくこくはくこくこくあ
ふくこくはくこくはくこくこくあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]